

前頭葉機能検査 FAB

患者氏名： 評価日： 評価者氏名： 合計点数： /18

	回答	得点	スコア
類似性	1.「概念化」	3:3問正答	
	①「バナナとオレンジ（みかん）」 ①	2:2問正答	
	②「テーブルとイス」 ②	1:1問正答	
	③「チューリップとバラとキク」 ③	0:正答なし	
語の流暢性	2.「知的柔軟性」	3:10語以上	
	・「か」から始まる言葉をできるだけたくさん答える	2:6語以上	
	・制限時間は60秒	1:3語以上	
		0:2語以下	
運動系列	3.「運動プログラミング」	3:6回以上	
	・「私がこれからすることをよく見ておいてください」	2:3回以上	
	・「それでは私と一緒にやってみましょう」	1:一緒に3回以上	
	・「今度は一人でやってみましょう」	0:一緒に3回以下	
反応の選択	4.「葛藤指示」	3:失敗なし	
	・「私が1回叩いたら、2回叩いてください」	2:失敗2回まで	
	・「次は、私が2回叩いたら、1回叩いてください」	1:失敗3回以上	
	・「次は1回叩いたり、2回叩いたりします」	0:上記以外	
GO / NO-GO	5.「GO/NO-GO」	3:失敗なし	
	・「私が1回叩いたら、1回叩いてください」	2:失敗2回まで	
	・「次は、私が2回叩いたら、叩かないでください」	1:失敗3回以上	
	・「次は1回叩いたり、2回叩いたりします」	0:上記以外	

前頭葉機能検査 Frontal Assessment Battery (FAB)

姓名:	種 ()	種名:	種名:
方法・手順		回数	回数・基準
難 性	1. 「概念文」→これから言う2つの名、どのが正しいかを考えて答えて下さい。 ①「バナナとオレンジ（ミカン）」（正解：バナナ、フルーツ） ②「テーブルとイス」（正解：家具） ③「チューリップとバラとキリ」（正解：花、植物）	3 2 1 0	3 1回正答 2 2回正答 1 1回正答 0 正答なし ① ② ③
	2. 「知覚的表紙」→「お」から始まる言葉を出せるだけ答え下さい。 ただし、人名や地名などは答えはいけません。 ・最初の1回には答えが思い当たる「お花かお鳥か」などヒントを与える ・次に10秒間考えがたからたら「おから始まる言葉で何でもいいですよ」など お答えを ・制限時間1分50秒間	3 2 1 0	3 10回以上 2 6回以上 1 3回以上 0 2回以上 ① ②
	3. 「認知プログラム」→「私がここから言うことをよく覚えて下さい」 （命一ノ葉）を3回連続して 「それではお別れと一緒に言うようにして下さい」 ・正解は1人お別れします。・・・続けてお別れします。」 ・次の1回からは、後者は必ずしも正解は必ずしも（必ずしも）を行うように促す （最後の1回は必ずしも正解は必ずしも） ・最後は一緒に言うように促すのを繰り返して下さい	3 2 1 0	3 1回で、正しい言葉を3回以上できる 2 1回で、正しい言葉を少なくとも3回連続してできる 1 1回で少なくとも1回、後者と一緒に正しい言葉を3回連続してできる 0 後者と一緒に正しい言葉を3回連続してできる
	4. 「返答指示」→「私が1回お別れ、2回叫んでください」 後者が指示を聞いたことを確認してから、次の系列を実施「1-1-1」 ・次は、「私が2回叫びました、1回叫んでください」 後者が指示を聞いたことを確認してから、次の系列を実施「2-2-2」 ・次は「私が3回叫びました、2回叫びますのやってみましょう」 つづきの系列を実施する 「1-1-2-1-2-2-2-1-1-2」	3 2 1 0	3 間違いなく可能 2 1回の間違いで可能 1 3回以上の間違い 0 1回以上2回以下に超過頻度でできても「全くできない」 全く1回（2回）で、5回以内にいる
G O / N O / G O	5. (G/NO-GO) →「今年私が指示を聞かれました、私が1回叫びました、1回叫んでください」 後者が指示を聞いたことを確認してから、次の系列を実施「1-1-1」 ・次は、「私が2回叫びました、1回叫んでください」 後者が指示を聞いたことを確認してから、次の系列を実施「2-2-2」 ・次は「私が3回叫びました、2回叫びますのやってみましょう」 つづきの系列を実施する 「1-1-2-1-2-2-2-1-1-2」	3 2 1 0	3 間違いなく可能 2 1回の間違いで可能 1 3回以上の間違い 0 1回以上2回以下に超過頻度でできても「全くできない」 全く1回（2回）で、5回以内にいる

MDS-UPDRS

氏名: 評価日: 評価者氏名: 合計点数: /260

パートⅠ：日常生活における非運動症状（nM-EDL）			
パートⅠA：複雑な行動			スコア
第一情報源： □患者 □介護者 □患者と介護者の両者から			
1.1 認知障害			
1.2 幻覚と精神症状			
1.3 抑うつ気分			
1.4 不安感			
1.5 無関心（アパシー）			
1.6 ドパミン調節異常症候群の症状			
パートⅠB：日常生活における非運動症状			
第一情報源： □患者 □介護者 □患者と介護者それぞれ同じくらしい比率で			
1.7 睡眠の問題			
1.8 日中の眠気			
1.9 痛みおよび他の感覚異常			
1.10 排尿の問題			
1.11 便秘			
1.12 立ちくらみ			
1.13 疲労			
パートⅠ合計：			/52
パートⅡ：日常生活で経験する運動症状の側面（M-EDL）			
2.1 会話			南病院 検査日 臨床性 全身 状態
2.2 唾液とよだれ			
2.3 そしゃくと嚥下			
2.4 摂食動作			
2.5 着替え			
2.6 身の回りの清潔			
2.7 書字			
2.8 趣味や娯楽			
2.9 転倒			

DSSと食事

	分類	食事
誤嚥なし	7 正常範囲	常食
	6 軽度問題	軟飯・軟菜食など 嚥菌・自器具の使用
	5 口腔問題	軟飯・軟菜食・ペースト食など 食事時間の延長、食事に指示・促しが必要 食べこぼし、口腔内残留が多い
誤嚥あり	4 機会誤嚥	嚥下障害食から常食 誤嚥防止方法が有効、水の誤嚥も防止可能 咽頭残留が多い場合も含む
	3 水分誤嚥	嚥下障害食、水分に増粘剤必要 水を誤嚥し誤嚥防止方法が無効
	2 食物誤嚥	経管栄養法
	1 唾液誤嚥	経管栄養法

- 13 ブローイング訓練 (blowing exercise) 藤原百合
- 14 呼吸トレーニング 小泉千秋
- 15 LSVT (Lee Silverman Voice Treatment, リー・シルバーマンの音声治療) 倉
- 16 プッシング・プリング訓練 (Pushing exercise) / (Pulling exercise) 山本弘子
- 17 冷圧刺激 (Thermal-tactile stimulation) 高橋浩二
- 18 のどのアイスマッサージ 中村智之
- 19 体幹機能向上訓練 小泉千秋
- 20 歯肉マッサージ (ガム・ラビング) 弘中祥司
- 21 バンゲード法 (筋刺激訓練法) 弘中祥司
- 22 過敏除去 (脱感作) 弘中祥司
- 3 基礎訓練および摂食訓練
- 1 息こらえ嚥下法 (声門閉鎖嚥下法, 声門越え嚥下法) (supraglottic swallow)
- 強い息こらえ嚥下法, (喉頭閉鎖嚥下法) (super-supraglottic swallow) 山本弘
- 2 顎突き嚥下法 大前由紀雄
- 3 咳・強制呼出手技またはフライング (Coughing, Forced expiration or Huffing)
- 玲
- 4 舌接触補助装置 (Palatal Augmentation Prosthesis: PAP) を用いた訓練 中島純
- 5 前頭皮痛用手刺激による嚥下反射促進手技 前田広士
- 6 電気刺激嚥下法 (Electrical stimulation therapy) 青柳陽一郎
- 7 非侵襲的脳刺激法 (rTMS, tDCS) 重松 孝
- 8 努力嚥下 (Effortful swallow, Hard swallow) 谷口 洋
- 9 軟口蓋挙上装置 (Palatal Lift Prosthesis: PLP) を用いた訓練 大野友久
- 10 バイオフィードバック biofeedback 勝又明敏
- 11 メンデルソン手技 Mendelsohn maneuver 高橋浩二
- 12 昭大式嚥下法 高橋浩二
- 13 K-point 刺激 小島千枝子
- 1 摂食訓練 (直接訓練)

摂食嚥下機能評価表（誤嚥性肺炎患者評価用） Ver.1 2018/09/29

南病院 ID _____ 登録 ID _____ 性別 _____ 生年月日 _____ / _____ / _____
検査日 _____ / _____ / _____ (依頼時・肺炎治療終了時・再評価時) 身長 _____ cm 体重 _____ Kg
誤嚥性肺炎既往 有 (今回 回目/1年以内) / 無 脳血管疾患既往 _____ (体重測定日: _____ / _____ / _____)

状態	意識レベル	JCS 0 / 1 2 3 / 10 20 30 / 100 200 300		
	従命可否	0. 拒否の従命可能/1, 拒否の模倣可能/2, 開口のみ模倣可能/3, 模倣でも開口不可		
呼吸状態	呼吸状態	0. 酸素療法不要 1. 鼻カニューラ装着が必要 2. フェスマスク装着が必要 3. 人工気道装置装着中		
	咳能力 □ 不明	0. 自己排痰が可能 1. 確実な排痰が望めない 2. 自己排痰が不可能		
欠食	咽頭吸引の有無	0. 咽頭吸引実施なし 1. 数時間毎に咽頭吸引が必要 2. 1時間毎に咽頭吸引が必要		
	食欲	0. 希望あり, 開口あり 1. 希望不明, 開口あり 2. 希望なし, 開口なし		
摂取	食事内容	主食 ミキサー粥・ゼリー粥・全粥・軟飯・米飯 提供量 1/4・1/2・全量 副食 ミキサー食・ソフト食・軟菜・全野菜・野菜 提供量 1/4・1/2・全量 栄養補助食品 (内容を記載)		
	摂取量	主食 全量 / 1/2 量 (全・1/2量) / 1/4 量 (1/2~1/4量) / 数口 (1/4以下) 副食 全量 / 1/2 量 (全・1/2量) / 1/4 量 (1/2~1/4量) / 数口 (1/4以下) 補助食品 全量 / 1/2 量 (全・1/2量) / 1/4 量 (1/2~1/4量) / 数口 (1/4以下)		
チエック	とろみの有無	なし / ポタージュ / ヨーグルト / ジャム 経口摂取 約 Cal		
	耐久性	0. 食事時間の姿勢保持可能 1. 制限時間内の姿勢保持可 分 2. リクライニング位保持不可		
	食事時間	分		
	食事内容	0. 自立 1. 一部介助 (見守り含む) 2. 全介助		
	ムセの有無	0. なし 1. 1回/食 程度 2. 数回/食 程度 3. 数回ごとで中断を要す		
	嚥下	フードテストのみや水(ゼリー) ティースプーン 1杯摂取 □ 変換不可 1回目 点 2回目 点 3回目 点		
口腔	口腔衛生状態	0. 清潔で残渣や歯垢がない 2. 部分的に食物残渣がある		
	状態 □ 評価困難	1. 部分的に歯垢がある 3. 歯肉辺縁や歯齦接触部全体に歯垢や残渣がある		
	舌舐め性	舌インデックス 各ブロックの合計 () ÷18×100 = %		
	□ 評価困難	舌インデックス 各ブロックが読取可能な数(1-5)を ÷18×100 = %		

Mini-Mental State Examination (MMSE)

検査日： 年 月 日 曜日 施設名：

氏名： _____ 男・女 生年月日：明・大・昭 _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ 歳

プロフィールは事前または事後に記入します。 検査者:

質問と注意点		回答	得点
1 (5点)	「今日は何日ですか」	日	0 1
時間 の見当	「今年は何年ですか」	年	0 1
	「今の季節は何ですか」		0 1
	「今日は何曜日ですか」	曜日	0 1
	「今月は何月ですか」	月	0 1
	「ここは都道府県でいうと何ですか」		0 1
2 (5点)	「ここは何市(★町・村・区など)ですか」		0 1
	(※ 回答が地名の場合、この施設の名前は何ですか、と質問をかえる。正答は建物名のみ)		0 1
	「ここは何階ですか」		0 1
	「ここは何地方ですか」	階	0 1
	「今から私がいう言葉を覚えてくり返し言ってください。」		0 1
3 (3点)	「さくら、ねこ、電車」はい、どうぞ」		0 1
	・正答1つにつき1点、合計3点満点。		
	「今の言葉は、後で聞くので覚えておいてください」		
	この3つの言葉は、質問が終わるまで後述される5つの単語答えられなかった被験者については、全部答えられるようになるまでくり返す。(ただし回答まで)		
4 (5点)	「100から順番に7をくり返し書いてください」		0 1 2
	正答例: 93 86 79 72 65		
	・答えが止まってしまった場合は「それから」と促す。		3 4 5
5 (3点)	「さっき私が言った3つの言葉は何でしたか」		0 1 2 3
	・質問で提示した言葉を再度復唱する。		
6 (5点)	時計(又は鍵)を見せながら「これは何ですか?」		0 1 2 3 4
	・時計を見せながら「これは何ですか?」		

すくみ足の詳細 C-FOGQ

患者氏名： _____ 評価日： _____ 評価者氏名： _____

Section 1 すくみ足の特徴

この質問用紙は、すくみ足について回答を求めるものです。すくみ足は、歩いている最中に急に足が前に出なくなってしまう、足が床にくっついてしまうように感じられる状態です。以下の質問の回答として適したものを選び、○で囲んでください。

1.0 すくみ足が生じたことがありますか？

上の質問に「はい」と回答した方は、以下の質問全てに回答してください。

1.1 すくみ足はどの程度の頻度で生じますか？

1.2 「1日に2回以上」生じると回答した方は、1日あたり平均して何回くらいすくみ足が生じますか？

2.0 すくみ足が通常どのくらい続きますか？

3.0 最もすくみ足が生じる時間帯はいつですか？

4.0 服薬によって、すくみ足が生じる程度は変化しますか？

5.0 脳深部刺激療法（DBS）によって、すくみ足が生じる程度は変化しますか？

Section II すくみ足が生じる状況

このページでは、すくみ足を生じさせる状況について質問します。以下の状況によってすくみ足が生じる頻度を、それぞれの質問に対して適した番号を選び、○で囲んでください。

- | | | | | | | |
|---|-------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 | その場で向きを変えるとき
(台所で向きを変えるなど) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2 | 角を曲がるとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3 | 歩きながら会話をするとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4 | 別の人や物に注意がそれたとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 急いでいるとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 6 | 不安を感じているとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7 | 出入り口のような狭い隙間を通り抜けるとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 | 周りが散らかっているとき | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 |